

(平成23年3月分)

部 門	市況の概要
野 菜	3月期の野菜の入荷状況は、根菜類では、ダイコンが生育期の低温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷減となる一方、西洋ニンジンでは、震災の影響による交通の乱れ等により本市場に入荷が集中し、入荷増となった。葉菜類は、低温、干ばつの影響から生育の遅れていたものの入荷が本月にずれ込み、多くの品目で入荷増となった。施設栽培を主とする果菜類では、作柄良好で、多くの品目で入荷増となった。根菜類は、全国的に品薄状態が続いているものの、震災の影響による交通の乱れ等により本市場へ入荷が集中し、バレイショでは、入荷並、タマネギでは、入荷増となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を8%上回った。 価格は、根菜類では、ダイコンが入荷減により単価高となった。また、ニンジンでは、震災の影響で、入荷の集中した本市場への需要の高まりから単価高となった。果菜類、葉菜類では、入荷増であった多くの品目で単価安となった。葉菜類のうちハクサイ、キャベツでは、加工、業務需要が堅調であったことから、単価高となった。土物類では、全国的な品薄状態が続いており、単価高となった。野菜全体としては、前年同期を4%下回った。 品目別には、西洋ニンジン、ハクサイ、キャベツが入荷増の単価高、タマネギが入荷増の単価前年並み、ホウレンソウ、レタス、キュウリ、トマト、ナス、ピーマンが入荷増の単価安、バレイショが入荷前年並みの単価高、ダイコンが入荷減の単価高となった。 根菜類は、入荷が3%減少し、価格は20%高となった。 葉菜類は、入荷が12%増加し、価格は5%安となった。 果菜類は、入荷が14%増加し、価格は18%安となった。 土物類は、入荷が11%増加し、価格は11%高となった。
果 実	3月期の果実の入荷状況は、本年が裏年の柑橘類、小玉傾向での入荷となったリンゴ類、作付面積が減少したメロン類で入荷減となった。一方、イチゴ類では、大粒傾向での入荷となり、入荷増となった。果実全体の入荷量は、前年同期を16%下回った。 価格は、柑橘類では、入荷減により単価高となった。リンゴ類では、入荷減ながら、下位等級の入荷割合が高く、前年並みの単価となった。イチゴ類及びメロン類は、イチゴ類では、入荷増により、メロン類では、業務需要の低迷からそれぞれ単価安となった。果実全体では前年同期を23%上回った。 品目別には、イチゴが入荷増の単価安、ミカン、イヨカン、不知火が入荷減の単価高、ふじ、アールスメロンが入荷減の単価安となった。 柑橘類は、入荷が35%減少し、価格は52%高となった。

	リンゴ類は、入荷が４％減少し、価格は前年並みとなった。 イチゴ類は、入荷が２０％増加し、価格は７％安となった。 メロン類は、入荷が６％減少し、価格は４％安となった。
--	---

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン 西洋ニンジン 【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ レタス 【果菜類】 キュウリ	長崎県、徳島県を中心に、滋賀県、神奈川県、鹿児島県からの入荷。各産地とも生育期の低温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を6％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を9％上回った。 鹿児島県を中心に、徳島県、長崎県、愛知県からの入荷。震災の影響による交通の乱れ等により本市場への入荷が集中し、入荷量は、前年同期を18％上回った 価格は、前年が単価安であったことに加え、入荷の集中した本市場への需要が高まり、前年同期を92％上回った。 長崎県を中心に、兵庫県、群馬県、熊本県、愛知県からの入荷。低温、干ばつの影響から生育の遅れていた群馬県産などの入荷が本月にずれ込んだことにより、入荷量は、前年同期を9％上回った。 価格は、入荷増ながら加工、業務需要が堅調であったことから、前年同期を42％上回った。 愛知県を中心に、兵庫県、大阪府、滋賀県、和歌山県からの入荷。多くの産地で、低温、干ばつの影響による生育の遅れから入荷が本月に集中した。入荷量は前年同期を16％上回った。 価格は、入荷増ながら加工、業務需要が堅調であったことから、前年同期を3％上回った。 京都府を中心に、徳島県、滋賀県、和歌山県、茨城県からの入荷。低温、干ばつの影響により生育の遅れていた徳島県産の入荷が本月にずれ込んだことにより、入荷量は前年同期を27％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を18％下回った。 兵庫県を中心に、長崎県、徳島県、岡山県、愛媛県からの入荷。低温、干ばつの影響から生育の遅れていた長崎産などの入荷が本月にずれ込んだことにより、入荷量は、前年同期を6％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を25％下回った。 宮崎県を中心に、高知県、滋賀県、徳島県、愛媛県からの入荷。各産地とも曇天が続くことがなく、作柄が良好であったことから入荷量は、前年同期を18％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を39％下回った。

ナス	高知県を中心に、岡山県、徳島県からの入荷。 主力の高知県産、岡山産では、出荷ピーク時に、震災が発生し、関東への出荷が減少する中で、本市場へ入荷が集中した。入荷量は、前年同期を31%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を17%下回った。
トマト	熊本県を中心に、福岡県、三重県、佐賀県、岐阜県からの入荷。 各産地とも曇天が続くことがなく、作柄が良好で入荷量は、前年同期を13%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を15%下回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、鹿児島県、茨城県からの入荷。 各産地とも曇天が続くことがなく、作柄が良好で入荷量は、前年同期を41%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を23%下回った。
【土物類】 バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に、鹿児島県、長崎県からの入荷。 主力の北海道産は夏期の高温の影響により品薄状態が続いているものの、震災の影響による交通の乱れ等により本市場へ入荷が集中し、入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、全国的な品薄状態から、単価高であった前年同期を更に33%上回った。
タマネギ	北海道を中心に、静岡県、兵庫県、長崎県、タイからの入荷。 主力の北海道産は夏期の高温の影響により品薄状態が続いているものの、震災の影響による交通の乱れ等により本市場へ入荷が集中し、入荷量は、前年同期を25%上回った。 価格は、全国的な品薄状態から、単価高であった前年同期並みであった。
【その他野菜】 生シイタケ	徳島県を中心に、広島県、和歌山県、北海道、岡山県からの入荷。北海道からの入荷増により、全体の入荷量は前年同期を4%上回った。 価格は、上位等級を中心に不況による需要の低迷が続いており、前年同期を9%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に、香川県、徳島県からの入荷。 本年は、裏年で着果数が少ない上に、各産地ともに夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を４８％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を５８％上回った。
イヨカン	愛媛県、和歌山県からの入荷。 １２月、１月の寒波の影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を４６％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を９８％上回った。
不知火	愛媛県を中心に、和歌山県、佐賀県、福岡県、熊本県からの入荷。 １２月、１月の寒波の影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を２６％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を２５％上回った。
ふじ （サン含む）	青森県を中心に、岩手県からの入荷。 各産地とも小玉傾向での入荷となり、入荷量は前年同期を５％下回った。 価格は、入荷減ながら、下位等級の入荷割合が高く、前年同期を３％下回った。
イチゴ	熊本県を中心に、福岡県、大分県、佐賀県、長崎県からの入荷。 各産地とも大粒傾向での入荷となった。また、前年の入荷量が少なかったことから、入荷量は前年同期を２０％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を７％下回った。
アールス	静岡県を中心に、高知県からの入荷。 静岡県、高知県では作付面積を減らしており、入荷量は前年同期を４％下回った。 価格は、入荷減ながら、業務需要の低迷から前年同期を６％下回った。